







(参加者)

- ・ 既存の決済システムとの連携では、エラー発生時における処理の巻き戻し等ブロックチェーン技術の特性とは相容れない処理が発生しがちである。海外の実証実験では、中銀のシステムとの接続において、サスペンスアカウント（仮勘定）を設けて、取引の整合性等の確認が終了した後に処理を実施している。

(参加者)

- ・ トークン化中銀マネーやステーブルコイン等民間のトークン化マネーは、競合するものではなく、それぞれ明確な役割分担がなされており、補完関係にあると考えている。
- ・ DLT 連携サンドボックスに関して、トークン化中銀マネーの発行・移転・償還だけでなく、民間のトークン化マネー等とのインターオペラビリティの検討に取り組むべきではないか。
- ・ Project Agorá における統一台帳の採用は有効ではあるが、API 連携やアトミック性、監査可能性等を含めたインターオペラビリティの検討も重要である。

(事務局)

- ・ DLT 連携サンドボックスに関して、様々なユースケースを視野に検討のスコープを広げつつ、チェーン間の接続方法や発生しうる技術的課題について、検討を進めていくことを考えている。

以 上